

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
家庭医療専門研修プログラム認定申請書
(新制度に基づく家庭医療専門研修プログラムの認定に関する細則に準拠したもの)

2019年10月30日

一般社団法人日本プライマリ・ケア連合学会
理 事 長 殿

以下の記載内容にて、貴学会家庭医療専門研修プログラムとして認定いただきますよう申請します。

プログラム責任者名 太田 茂

* Word ファイルをメール添付で提出して下さい。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

1. 名称（他のプログラムと容易に区別できること）

備後地区家庭医療専門研修プログラム

2. プログラム責任者

氏名	太田 茂	指導医認定番号	2014-0620
所属・役職	内科・診療部長		
所在地・連絡先	住所 〒720-0201 広島県福山市鞆町鞆3 2 3 番地 電話 084-982-2431 FAX 084-982-0781 E-mail otashigeru@gmail.com		
連絡担当者氏名※・役職	三戸 孝己		
連絡先	電話 084-982-2431 FAX 084-982-0781 E-mail jimusho@fujii.dr-clinic.jp		

※プログラム責任者と別に連絡担当者がある場合にのみ記載。プログラム認定において疑義が生じたとき、学会側から担当者か責任者に連絡することがある。

3. 専攻医定員

1年あたり（ 2 ）名 （専門研修指導医数×研修期間年数÷2 = 総定員（ 6 ）名

4. プログラムの構成

A. プログラムの種別と期間

該当するものは■に替える。

■単独プログラム：総合診療専門医取得後に家庭医療専門研修プログラムに登録する場合

■連動プログラム：総合診療専門研修プログラムに家庭医療専門研修プログラムを組み込む場合

※単独プログラムと連動プログラムは、同一施設で本様式内に両者を記載することで、同時申請可能。

※単独プログラムは研修プログラム、研修管理、研修施設を6～8、連動プログラムはそれぞれ9～11に記載。

B. 専門研修の構成（月単位の換算による）

該当するプログラムの口を■に変更した上で、必要に応じて（ ）内の数字を記入すること。

■単独プログラム：

家庭医療専門研修Ⅰ（診療所・中小病院）（ 18 ）カ月（18カ月以上、12カ月以上は同一施設で連続して研修）

家庭医療専門研修Ⅱ（病院総合診療部門）（ 6 ）カ月（6カ月以上）

■連動プログラム：

総合診療専門研修プログラムと同時研修で、

家庭医療専門研修Ⅰ（ 24 ）カ月、家庭医療専門研修Ⅱ（ 6 ）カ月

家庭医療専門研修プログラムの追加分において、家庭医療専門研修Ⅰ（ 12 ）カ月

5. 概要

A. プログラムを展開する場や医療施設の地域背景や特長

紫苑会藤井病院は長年にわたり地域に根ざした医療を展開しています。地域に貢献することが出来るジェネラリスト育成を使命のもとに、間口の広い、深みのある総合診療・家庭医の世界に触れることが出来るプログラムを策定しました。

B. プログラムの理念

地域に貢献できるジェネラリストを養成する。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

C. 全体的な研修目標

- ①家族志向のケアを包括的、継続的に提供する
- ②適切な医療面接、身体診察を行い医学的マネージメントを身につける
- ③重篤な患者も含め、全身管理が可能になる

D. 各ローテーション先で学べる内容や特色

高齢者の多い地域での研修になるため高齢者とその家族、地域をみることができる。
また、歴史ある街であり、観光地としての地域の姿をみて考えながら地域医療を行うことができる。

E. 指導体制に関する特長

救急や総合内科、家庭医療などに長けた指導医が複数おり、ジェネラリストとして身に着けるべき知識、技術、態度領域について様々な角度からフィードバックができる。

F. 医療専門職、保健・福祉専門職の協力を得る方法

病院の方針として専攻医の教育を担うことを周知する。また専攻医に対しては多職種と連携をとるよう指導し、多職種からもフィードバックを行い研修に反映させる。

G. 地域の住民、医療機関の利用者などの協力を得る方法

地域住民に向けて研修病院であることを病院内で掲示する。

H. その他

JATEC やマイナー・エマージェンシーT&A、小児 T&A などのシミュレーション教育コースの受講生やインストラクターとして参加し、基本的な技能を獲得します。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

6. 単独プログラム：研修プログラム

A. 経験目標（臨床）

別紙（エクセルの様式）に記載。

B. 経験目標（研究）

次のいずれかの実績を条件とする。基準を満たす場合、□を■に変更する。

- 論文：関連領域の学術雑誌に筆頭著者として論文掲載。原著論文、症例報告、総説論文など。商業誌でも可
- 書籍：関連領域の書籍の執筆。部分的な執筆でも可とするが、筆頭であること
- 学会発表：関連領域で3回以上。学術的な集会で抄録が確認できるもの。院内発表会等は除く

■上記が実施できるような指導体制、準備期間、支援が準備できる。

C. 学習環境

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■UpToDate□、Dynamed□、各種診療ガイドラインなどの情報源の利用：週1回以上

D. 臨床現場での学習機会

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

- 指導医とのビデオレビュー（各専攻医あたり）：6カ月に1回以上
- 診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅰの症例カンファレンス：月2回以上
- 診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅱの症例カンファレンス：週1回以上
- 困難事例のマネジメントをテーマにしたカンファレンス：月1回以上
- 指導医と専攻医が行う振り返り：月1回以上

E. Off-the-job training

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。必須単位：臨床36単位（ウィメンズヘルス3単位*、災害医療3単位を含む）、教育6単位、研究6単位、マネジメント6単位（※ウィメンズヘルスは、産婦人科のブロック研修ないしは定期的な外来研修を行う場合は免除）

■上記に確実に参加できるよう支援できる。

F. 地域の医師会や行政と連携した地域保健活動

日本医師会かかりつけ医機能研修制度実地研修に定める以下の項目のうち、5つ以上実践する。

実践を予定する項目について□を■に変更する。

- 1. 学校医・園医、警察業務への協力医
- 2. 健康スポーツ医活動
- 3. 感染症定点観測への協力
- 4. 健康相談、保健指導、行政（保健所）と契約して行っている検診・定期予防接種の実施
- 5. 早朝・休日・夜間・救急診療の実施・協力
- 6. 産業医・地域産業保健センター活動の実施
- 7. 訪問診療の実施
- 8. 家族等のレスパイトケアの実施
- 9. 主治医意見書の記載
- 10. 介護認定審査会への参加
- 11. 退院カンファレンスへの参加
- 12. 地域ケア会議等※への参加（※会議の名称は地域により異なる）
- 13. 医師会、専門医会、自治会、保健所関連の各種委員
- 14. 看護学校等での講義・講演
- 15. 市民を対象とした講座等での講演
- 16. 地域行事（健康展、祭りなど）への医師としての出務

G. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱ研修期間中の形成評価（記録は保管すること）

各専攻医当たりの回数に関して以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

- 研修手帳の記録の確認と共同振り返り：月1回以上
- 360度評価：6カ月に1回以上
- Case-based discussion (CbD)：3カ月に1回以上
- Mini-CEX（ビデオレビュー時でも可）：6カ月に1回以上

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

7. 単独プログラム：研修管理

A. 研修管理委員会：構成メンバー

氏名	所属	役職	職種
宮阪 英	紫苑会藤井病院	院長	医師
太田 茂	紫苑会藤井病院	診療部長	医師
平岩 千尋	紫苑会藤井病院	医員	医師
専攻医代表	紫苑会藤井病院	後期研修医	医師
藤本 みどり	紫苑会藤井病院	看護部長	看護師

※1 行が足りないときは、随時増やすこと。

※2 医師以外の職種、専攻医代表（専攻医在籍時）、専門研修に関わる各施設指導医を、最低各1名はメンバーに加える。

B. 施設群の構成

(1) 基幹施設

名称	研修担当分野※1	プログラム責任者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
紫苑会藤井病院	①②	太田茂	2	

(2) 連携施設※2

名称	研修担当分野※1	施設代表者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称

※1 ①家庭医療専門研修Ⅰ、②家庭医療専門研修Ⅱ、③管理業務のみ（基幹施設のみ該当）の形で番号を記入。

※2 専門研修連携施設については、行が足りないときは随時増やすこと。

(3) 基幹施設・連携施設での研修期間（連携施設での研修期間の方が長い場合、理由を記す）

基幹施設	(24) カ月	連携施設での研修期間の方が長い理由：
連携施設	() カ月	

C. 研修資源の予算

■研修施設として、教育に割り当てる資源に対する責務と権限に関する明確な方針が存在している。

D. プログラム責任者履歴

記入日	2019年10月27日
氏名	太田茂
卒後年数	2005年
主な職歴	H17/4 津山中央病院 初期研修医 H19/4 津山中央病院 内科 医員 H20/4 広島市立広島市民病院 内科 医員 H22/7 岡山大学病院 消化器内科 医員 H23/7 洛和会音羽病院 総合内科 医長（H24から科長） H26/4 福山市民病院 内科（総合内科部門）科長 H30/4 医療法人紫苑会藤井病院 内科 診療部長
専門医・指導医資格	総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
主な教育歴	洛和会音羽病院 総合内科で医長・チームリーダーとして教育に携わる。 福山市民病院・医療法人紫苑会藤井病院では、日本プライマリ・ケア連合学会の指導医・家庭医療研修プログラム責任者として専門医教育を行っている。
必要な講習会受講歴	R1/11 特任指導医講習会（受講予定）
その他	

※プログラム副責任者がいる場合は、以下のスペースに欄をコピーして履歴を示すこと。

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

<p>E. 指導医の立場</p> <p>■指導医は、認定基準を満たす指導ができるだけの業務時間と権限を割り当てられている。</p>
<p>F. 専攻医の立場</p> <p>■専攻医の身分や給与などの処遇は、研修期間を通して適切に担保され、関係者に周知されている。</p> <p>■専攻医は、医療チームの一員として、他に働いている医師と同様の診療業務（休日や夜間の時間帯を含む）に携わる。</p>
<p>G. メンター制度</p> <p>■専攻医の研修上の問題解決やキャリア形成の支援をするためのメンター制度を導入している。</p>
<p>H. 総括評価</p> <p>■下記が実施できるような評価体制が準備できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱの修了時に、研修手帳に記載された自己評価の確認と到達度評価を指導医が実施する。 2. 研修期間を満了し、かつ家庭医療専門研修Ⅰを18カ月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6カ月以上修了している。指導医から修了に足る評価が得られたことをプログラム責任者が確認する。 3. 専攻医自身が作成したポートフォリオにおいて全領域で基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。 4. 経験目標は研修プログラムに定められた基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。 5. 360度評価、CbD、Mini-CEXの結果は、各施設で定めた基準に達していることをプログラム責任者が確認する。
<p>I. 研修修了認定の方法</p> <p>■修了判定会議のメンバーは、研修管理委員会と同一（専攻医代表のみ退席）</p> <p><input type="checkbox"/>その他（</p>

受付番号		受付日 20 年 月 日	決定日 20 年 月 日	決定
------	--	--------------	--------------	----

8. 単独プログラム：研修施設				
8-1. 家庭医療専門研修 I				
研修施設名 1	紫苑会藤井病院		診療科名 (内科)	
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと) <input checked="" type="checkbox"/> 200床以下の小病院 ()			
家庭医療専門研修 I における研修期間	(18) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり ※同一施設で12カ月以上の継続研修が含まれなければならない。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。			
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※ ※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。			
指導医氏名 1	宮阪 英	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-747)
指導医氏名 2	太田 茂	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0620)
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))				
施設要件				
各専攻医当たりの経験症例数として、 <input checked="" type="checkbox"/> 外来のべ患者数：概ね30人/週以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 後期高齢者：経験症例数全体の10%以上である。 <input type="checkbox"/> 学童期以下の小児：経験症例数全体の5%以上である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。 <input type="checkbox"/> 院内小児科で経験症例を補完する※ <input type="checkbox"/> 同一地域の院外小児科診療所、病院小児科等で経験症例を補完する※：施設名 () <input checked="" type="checkbox"/> 医療資源の乏しい地域に位置し、上記の要件を満たさないが、当該年齢層の患者を断らずに診療する。 年間患者数実績 (510) 人、当該年齢層の患者数 (88) 人 <input type="checkbox"/> 当該年齢層の患者の診療は経験できないが、当施設での研修は6ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (小児の経験症例数の条件を満たす) で12ヶ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 <input checked="" type="checkbox"/> 精神医学・心身医学領域の疾患：概ね2人/週以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療患者数概ね5人/週以上、終末期医療概ね1人/6ヶ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 <input type="checkbox"/> 同一地域で訪問診療を提供している他の医療機関で補完する※：施設名 () <input type="checkbox"/> 訪問診療は経験できないが、当施設での研修は6ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (訪問診療患者数の条件を満たす) で12ヶ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
体制やコンセプト				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (24時間体制で救急患者の受け入れを行っている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (定期外来に受診する患者を継続的に診療し、外来、入院、在宅診療にシームレスに関わる事ができる。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (予防・健康増進を目的とした健康講座を行っている。また定期外来や在宅で診療している患者の病状が悪化した際に入院で診療を継続している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (高次医療機関との連携を行ったり、担当者会議、地域ケア会議、在宅診療に関する地域連携の会議などに参加する。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (高齢患者と介護する世代を中心に診療する機会が多い。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。 具体的な内容と方法 (通院していない地域住民を含めた健康課題を探り、課題に即した内容の健康講座などを実行で				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

きる。)	
週当たり研修日数：(5) 日/週 ※本研修(家庭医療専門研修Ⅰ)は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。	
家庭医療専門研修Ⅰ(本研修)の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数(週1日まで)※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。	
内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

8-2. 家庭医療専門研修Ⅱ				
研修施設名 1	医療法人紫苑会 藤井病院	診療科名 (内科)		
施設情報	病院病床数 (114) 床	診療科病床数 () 床		
家庭医療専門研修Ⅱにおける研修期間		(6) カ月		
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請※ <small>※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。</small>			
指導医氏名 1	宮阪 英	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-747)
指導医氏名 2	太田 茂	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0620)
要件(各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす(<input checked="" type="checkbox"/> のように))				
施設要件				
<input checked="" type="checkbox"/> 一般病床を有する <input checked="" type="checkbox"/> 救急医療を提供している				
各専攻医当たりの経験症例数				
<input checked="" type="checkbox"/> 退院サマリー作成数：概ね8人/月以上 <input checked="" type="checkbox"/> うち、救急外来や一般外来からの緊急(即日)入院：概ね4人/月以上 <input checked="" type="checkbox"/> 退院前カンファレンス参加件数：概ね1件/月以上 <input checked="" type="checkbox"/> 外来患者数：概ね15人/週以上 <input checked="" type="checkbox"/> うち、新患・定期外の急性の問題：概ね5人/週以上 <input checked="" type="checkbox"/> 救急外来患者数：概ね3人/週以上				
病棟診療				
<input checked="" type="checkbox"/> 高齢者(特に虚弱)ケア 具体的な体制と方略(緊急入院、救急搬送される虚弱高齢者に対し、Geriatric comprehensive assessment、老年症候群やポリファーマシーへの対応、アドバンスド・ケア・プランニングを含めた適切な方針決定を行う)				
<input checked="" type="checkbox"/> 複数の健康問題を抱える患者への対応 具体的な体制と方略(複数の問題を抱える患者の主治医となり、バランスの取れた問題解決を行う。複雑なケースではソーシャルワーカー・看護師・理学療法士らリハビリ部門で多職種カンファレンスを行っている)				
<input checked="" type="checkbox"/> 必要に応じた専門医との連携 具体的な体制と方略(消化器内科、循環器内科、皮膚科、泌尿器科、整形外科との垣根は低く、お互いの協力が得られている。重症患者は救急専門医と協力しながら主治医として診療にあたる)				
<input checked="" type="checkbox"/> 心理・社会・倫理的複雑事例への対応 具体的な体制と方略(具体的な体制と方略(複雑なケースではソーシャルワーカー・看護師・理学療法士らリハビリ部門で多職種カンファレンスを行っている)				
<input checked="" type="checkbox"/> 癌・非癌患者の緩和ケア 具体的な体制と方略(非癌患者の終末期に関わる事が多く、適切な終末期の方針決定と癌の有無に関わらず症状緩和に努めている)				
<input checked="" type="checkbox"/> 退院支援と地域連携機能の提供 具体的な体制と方略(地域連携室が中心的な役割を担っている。近隣の後方病院の医師・地域連携室と顔の見える関係を構築するため病院・診療所訪問を行う)				
<input checked="" type="checkbox"/> 在宅患者の入院時対応 具体的な体制(在宅患者からの入院も多く、在宅から緊急入院の症例も多く経験する)				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

外来診療	
<p>■救急外来及び初診外来 具体的な体制と方略（二次救急輪番当直を月1～2回行う。平日日中の内科系救急担当を2コマ担当する。紹介状なしの初診、診断難渋症例の紹介を担当する）</p>	
<p>■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者 具体的な体制と方略（紹介状なしの初診、診断難渋症例の紹介を担当している。後期研修医は週1回担当し実際に担当する初診患者は10～15人であり、全例カルテチェック、振り返りを行っている）</p>	
<p>■よくある症候と疾患 具体的な体制と方略（あらゆる症候の初療を対応する。具体的には急性上気道炎や急性下痢症から、検診2次精査の未治療高血圧や糖尿病患者の患者が対象である）</p>	
<p>■臨床推論・EBM 具体的な体制と方略（月1回、EBMの5stepに基づいた抄読会、日々のクリニカルクエスチョンを解決するための疑問の定式化、文献検索支援の院内ワークショップ、解決した内容の発表会）</p>	
<p>■複数の健康問題への包括的なケア 具体的な体制と方略（Medically unexplained symptomsを抱える患者の紹介受け入れと、認知行動療法や薬物療法を用いた症状緩和、ポリファーマシーへの対応）</p>	
<p>■診断困難患者への対応 具体的な体制と方略（診断困難患者への対応が任務であり文献検索も用い問題解決に当たる。当院で精査を行っても解決困難となる症例は年2～3例であり岡山大学病院総合内科など高次医療機関へのコンサルトを行っている）</p>	
<p>週当たり研修日数：（ 5 ）日/週 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。</p>	
<p>家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。</p>	
内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

8-3. 領域別研修：その他*						
研修領域	必修・ 選択別	ブロック・ 兼任の別	研修日数/週 (兼任の場 合)	研修期間	研修施設名と 診療科名	指導医氏名
内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
小児科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
救急	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
精神科／ 心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
産婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
眼科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
放射線科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
臨床検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
その他 ()	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		

*家庭医療専門研修プログラム期間中に行うものだけ記載すればよい。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

9. 連動プログラム：研修プログラム

A. 経験目標（臨床）

別紙（エクセルの様式）に記載。

B. 経験目標（研究）

次のいずれかの実績を条件とする。基準を満たす場合、□を■に変更する。

- 論文：関連領域の学術雑誌に筆頭著者として論文掲載。原著論文、症例報告、総説論文など。商業誌でも可
- 書籍：関連領域の書籍の執筆。部分的な執筆でも可とするが、筆頭であること
- 学会発表：関連領域で3回以上。学術的な集会で抄録が確認できるもの。院内発表会等は除く

■上記が実施できるような指導体制、準備期間、支援が準備できる。

C. 学習環境

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

■UpToDate□、Dynamed□、各種診療ガイドラインなどの情報源の利用：週1回以上

D. 臨床現場での学習機会

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

- 指導医とのビデオレビュー（各専攻医あたり）：6カ月に1回以上
- 診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅰの症例カンファレンス：月2回以上
- 診断・治療をテーマにした家庭医療専門研修Ⅱの症例カンファレンス：週1回以上
- 困難事例のマネジメントをテーマにしたカンファレンス：月1回以上
- 指導医と専攻医が行う振り返り：月1回以上

E. Off-the-job training

以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。必須単位：臨床36単位（ウィメンズヘルス3単位*、災害医療3単位を含む）、教育6単位、研究6単位、マネジメント6単位（※ウィメンズヘルスは、産婦人科のブロック研修ないしは定期的な外来研修を行う場合は免除）

■上記に確実に参加できるよう支援できる。

F. 地域の医師会や行政と連携した地域保健活動

日本医師会かかりつけ医機能研修制度実地研修に定める以下の項目のうち、5つ以上実践する。

実践を予定する項目について□を■に変更する。

- 1. 学校医・園医、警察業務への協力医
- 2. 健康スポーツ医活動
- 3. 感染症定点観測への協力
- 4. 健康相談、保健指導、行政（保健所）と契約して行っている検診・定期予防接種の実施
- 5. 早朝・休日・夜間・救急診療の実施・協力
- 6. 産業医・地域産業保健センター活動の実施
- 7. 訪問診療の実施
- 8. 家族等のレスパイトケアの実施
- 9. 主治医意見書の記載
- 10. 介護認定審査会への参加
- 11. 退院カンファレンスへの参加
- 12. 地域ケア会議等※への参加（※会議の名称は地域により異なる）
- 13. 医師会、専門医会、自治会、保健所関連の各種委員
- 14. 看護学校等での講義・講演
- 15. 市民を対象とした講座等での講演
- 16. 地域行事（健康展、祭りなど）への医師としての出務

G. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱ研修期間中の形成評価（記録は保管すること）

各専攻医当たりの回数に関して以下の基準を満たす場合、□を■に変更する。

- 研修手帳の記録の確認と共同振り返り：月1回以上
- 360度評価：6カ月に1回以上
- Case-based discussion (CbD)：3カ月に1回以上
- Mini-CEX（ビデオレビュー時でも可）：6カ月に1回以上

受付番号		受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定	
------	--	-----	----------	-----	----------	----	--

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

10. 連動プログラム：研修管理

A. 研修管理委員会：構成メンバー

氏名	所属	役職	職種
宮阪 英	紫苑会藤井病院	院長	医師
太田 茂	紫苑会藤井病院	診療部長	医師
平岩 千尋	紫苑会藤井病院	医員	医師
専攻医代表	紫苑会藤井病院	後期研修医	医師
藤本 みどり	紫苑会藤井病院	看護部長	看護師

※1 行が足りないときは、随時増やすこと。

※2 医師以外の職種、専攻医代表（専攻医在籍時）、専門研修に関わる各施設指導医を、最低各1名はメンバーに加える。

B. 施設群の構成

(1) 基幹施設

名称	研修担当分野※1	プログラム責任者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称
紫苑会藤井病院	①②	太田茂	2	

(2) 連携施設※2

名称	研修担当分野※1	施設代表者名	指導医数	他に連携するプログラムの名称

※1 ①家庭医療専門研修Ⅰ、②家庭医療専門研修Ⅱ、③管理業務のみ（基幹施設のみ該当）の形で番号を記入。

※2 専門研修連携施設については、行が足りないときは随時増やすこと。

(3) 基幹施設・連携施設での研修期間（連携施設での研修期間の方が長い場合、理由を記す）

基幹施設 (12) カ月	連携施設での研修期間の方が長い理由：
連携施設 () カ月	

C. 研修資源の予算

□研修施設として、教育に割り当てる資源に対する責務と権限に関する明確な方針が存在している。

D. プログラム責任者履歴

記入日	2019年10月27日
氏名	太田茂
卒後年数	2005年
主な職歴	H17/4 津山中央病院 初期研修医 H19/4 津山中央病院 内科 医員 H20/4 広島市立広島市民病院 内科 医員 H22/7 岡山大学病院 消化器内科 医員 H23/7 洛和会音羽病院 総合内科 医長（H24から科長） H26/4 福山市民病院 内科（総合内科部門）科長 H30/4 医療法人紫苑会藤井病院 内科 診療部長
専門医・指導医資格	総合内科専門医 日本消化器病学会専門医 日本プライマリ・ケア連合学会認定医・認定指導医
主な教育歴	洛和会音羽病院 総合内科で医長・チームリーダーとして教育に携わる。 福山市民病院・医療法人紫苑会藤井病院では、日本プライマリ・ケア連合学会の指導医・家庭医療研修プログラム責任者として専門医教育を行っている。
必要な講習会受講歴	R1/11 特任指導医講習会（受講予定）
その他	

※プログラム副責任者がいる場合は、以下のスペースに欄をコピーして履歴を示すこと。

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

E. 指導医の立場

■指導医は、認定基準を満たす指導ができるだけの業務時間と権限を割り当てられている。

F. 専攻医の立場

■専攻医の身分や給与などの処遇は、研修期間を通して適切に担保され、関係者に周知されている。

■専攻医は、医療チームの一員として、他に働いている医師と同様の診療業務（休日や夜間の時間帯を含む）に携わる。

G. メンター制度

■専攻医の研修上の問題解決やキャリア形成の支援をするためのメンター制度を導入している。

H. 総括評価

■下記が実施できるような評価体制が準備できる。

1. 家庭医療専門研修Ⅰ・Ⅱの修了時に、研修手帳に記載された自己評価の確認と到達度評価を指導医が実施する。
2. 研修期間を満了し、かつ家庭医療専門研修Ⅰを18カ月以上、家庭医療専門研修Ⅱを6カ月以上修了している。
指導医から修了に足る評価が得られたことをプログラム責任者が確認する。
3. 専攻医自身が作成したポートフォリオにおいて全領域で基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
4. 経験目標は研修プログラムに定められた基準に到達していることをプログラム責任者が確認する。
5. 360度評価、CbD、Mini-CEXの結果は、各施設で定めた基準に達していることをプログラム責任者が確認する。

I. 研修修了認定の方法

■修了判定会議のメンバーは、研修管理委員会と同一（専攻医代表のみ退席）

その他（)

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

1 1. 連動プログラム：研修施設				
1 1-1. 家庭医療専門研修 I				
研修施設名 1	医療法人紫苑会藤井病院	診療科名 (内科)		
施設種別	<input type="checkbox"/> 診療所 <input checked="" type="checkbox"/> 200 床以下の小病院	<input type="checkbox"/> 中規模病院 (※下に中規模病院で本研修を行う必要性を記すこと)		
家庭医療専門研修 I における研修期間	(12) カ月			
研修期間の分割	<input checked="" type="checkbox"/> なし <input type="checkbox"/> あり			
※同一施設で 12 カ月以上の継続研修が含まれなければならない。 「分割あり」の場合、研修期間の分割について具体的に記入して下さい。				
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*			
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。				
指導医氏名 1	宮阪 英	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2013-747)
指導医氏名 2	太田 茂	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	(2014-0620)
指導医氏名 3		<input type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤	指導医認定番号	()
要件 (各項目の全てを満たすとき、 <input type="checkbox"/> を塗りつぶす (<input checked="" type="checkbox"/> のように))				
施設要件				
各専攻医当たりの経験症例数として、 <input checked="" type="checkbox"/> 外来のべ患者数：概ね 30 人/週以上である。				
<input checked="" type="checkbox"/> 後期高齢者：経験症例数全体の 10% 以上である。				
<input type="checkbox"/> 学童期以下の小児：経験症例数全体の 5% 以上である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。 <input type="checkbox"/> 院内小児科で経験症例を補完する* <input type="checkbox"/> 同一地域の院外小児科診療所、病院小児科等で経験症例を補完する*：施設名 () <input checked="" type="checkbox"/> 医療資源の乏しい地域に位置し、上記の要件を満たさないが、当該年齢層の患者を断らずに診療する。 年間患者数実績 (510) 人、当該年齢層の患者数 (88) 人 <input type="checkbox"/> 当該年齢層の患者の診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (小児の経験症例数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
<input checked="" type="checkbox"/> 精神医学・心身医学領域の疾患：概ね 2 人/週以上である。 <input checked="" type="checkbox"/> 訪問診療患者数概ね 5 人/週以上、終末期医療概ね 1 人/6 カ月以上であり、緊急往診に対応可能である。 ※満たさない場合、以下のいずれかが必要。上の条件の場合「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。 <input type="checkbox"/> 同一地域で訪問診療を提供している他の医療機関で補完する*：施設名 () <input type="checkbox"/> 訪問診療は経験できないが、当施設での研修は 6 ヶ月以内であり、プログラム内の他の認定施設 (訪問診療患者数の条件を満たす) で 12 カ月以上連続した家庭医療専門研修 I を行う (経過措置)。 ※「研修期間中に週 1 回などのペースで並行して行われる領域別研修」に追記すること。				
体制やコンセプト				
<input checked="" type="checkbox"/> アクセスの担保：24 時間体制で医療機関が患者の健康問題に対応する体制をとっている。 具体的な体制と方略 (24 時間体制で救急患者の受け入れを行っている。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 継続的なケア：一定の患者に対して研修期間中の継続的な診療を提供する。 具体的な体制と方略 (定期外来に受診する患者を継続的に診療し、外来、入院、在宅診療にシームレスに関わることができる。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 包括的なケア：一施設で急性期、慢性期、予防・健康増進、緩和ケアなどを幅広く担当。 具体的な体制と方略 (予防・健康増進を目的とした健康講座を行っている。また定期外来や在宅で診療している患者の病状が悪化した際に入院で診療を継続している。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 多様なサービスとの連携：必要な医療機関、介護・福祉機関などと適切に連携する。 具体的な体制と方略 (高次医療機関との連携を行ったり、担当者会議、地域ケア会議、在宅診療に関する地域連携の会議などに参加する。)				
<input checked="" type="checkbox"/> 家族志向型ケア：様々な年齢層を含む同一家族の構成員が受診する。 具体的な状況 (高齢患者と介護する世代を中心に診療する機会が多い。)				

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

■地域志向型ケア：受診していない地域住民への集団アプローチを計画的に実施する。
具体的な内容と方法（通院していない地域住民を含めた健康課題を探り、課題に即した内容の健康講座などを実行できる。）

週当たり研修日数：（ 5 ）日/週

※本研修（家庭医療専門研修Ⅰ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。

家庭医療専門研修Ⅰ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※カンファレンス等学習機会はここに記載しない。

内容

日数

日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー&ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

11-2. 家庭医療専門研修Ⅱ

研修施設名1	医療法人紫苑会藤井病院	診療科名（内科）
施設情報	病院病床数（114）床	診療科病床数（ ）床
家庭医療専門研修Ⅱにおける研修期間	（6）カ月	
常勤の認定指導医の配置の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 配置あり <input type="checkbox"/> 配置なし → 特例申請*	
※指導医の特例申請は、原則的に、へき地・離島と都道府県より法的に指定されている地区の施設においてのみ申請可能。		
指導医氏名1	宮阪 英	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号（2013-747）
指導医氏名2	太田 茂	<input checked="" type="checkbox"/> 常勤 <input type="checkbox"/> 非常勤 指導医認定番号（2014-0620）
要件（各項目の全てを満たすとき、□を塗りつぶす（■のように））		

施設要件

- 一般病床を有する
- 救急医療を提供している

各専攻医当たりの経験症例数

- 退院サマリー作成数：概ね8人/月以上
 - うち、救急外来や一般外来からの緊急（即日）入院：概ね4人/月以上
- 退院前カンファレンス参加件数：概ね1件/月以上
- 外来患者数：概ね15人/週以上
 - うち、新患・定期外の急性の問題：概ね5人/週以上
- 救急外来患者数：概ね3人/週以上

病棟診療

■高齢者（特に虚弱）ケア
具体的な体制と方略（緊急入院、救急搬送される虚弱高齢者に対し、Geriatric comprehensive assessment、老年症候群やポリファーマシーへの対応、アドバンスド・ケア・プランニングを含めた適切な方針決定を行う）

■複数の健康問題を抱える患者への対応
具体的な体制と方略（複数の問題を抱える患者の主治医となり、バランスの取れた問題解決を行う。複雑なケースではソーシャルワーカー・看護師・理学療法士らリハビリ部門で多職種カンファレンスを行っている）

■必要に応じた専門医との連携
具体的な体制と方略（消化器内科、循環器内科、皮膚科、泌尿器科、整形外科との垣根は低く、お互いの協力がえられている。重症患者は救急専門医と協力しながら主治医として診療にあたる）

■心理・社会・倫理的複雑事例への対応
具体的な体制と方略（具体的な体制と方略（複雑なケースではソーシャルワーカー・看護師・理学療法士らリハビリ部門で多職種カンファレンスを行っている）

■癌・非癌患者の緩和ケア
具体的な体制と方略（非癌患者の終末期に関わる事が多く、適切な終末期の方針決定と癌の有無に関わらず症状緩和に努めている）

■退院支援と地域連携機能の提供
具体的な体制と方略（地域連携室が中心的な役割を担っている。近隣の後方病院の医師・地域連携室と顔の見える関係を構築するため病院・診療所訪問を行う）

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

■在宅患者の入院時対応
 具体的な体制（在宅患者からの入院も多く、在宅から緊急入院の症例も多く経験する）

外来診療
 ■救急外来及び初診外来
 具体的な体制と方略（二次救急輪番当直を月1～2回行う。平日日中の内科系救急担当を2コマ担当する。紹介状なしの初診、診断難渋症例の紹介を担当する）

■臓器別ではない外来で幅広く多くの初診患者
 具体的な体制と方略（紹介状なしの初診、診断難渋症例の紹介を担当している。後期研修医は週1回担当し実際に担当する初診患者は10～15人であり、全例カルテチェック、振り返りを行っている）

■よくある症候と疾患
 具体的な体制と方略（あらゆる症候の初療を対応する。具体的には急性上気道炎や急性下痢症から、検診2次精査の未治療高血圧や糖尿病患者の患者が対象である）

■臨床推論・EBM
 具体的な体制と方略（月1回、EBMの5stepに基づいた抄読会、日々のクリニカルクエスチョンを解決するための疑問の定式化、文献検索支援の院内ワークショップ、解決した内容の発表会）

■複数の健康問題への包括的なケア
 具体的な体制と方略（Medically unexplained symptomsを抱える患者の紹介受け入れと、認知行動療法や薬物療法を用いた症状緩和、ポリファーマシーへの対応）

■診断困難患者への対応
 具体的な体制と方略（診断困難患者への対応が任務であり文献検索も用い問題解決に当たる。当院で精査を行っても解決困難となる症例は年2～3例であり岡山大学病院総合内科など高次医療機関へのコンサルトを行っている）

週当たり研修日数：（ 5 ）日/週
 ※本研修（家庭医療専門研修Ⅱ）は週に4日以上行わなければならない。下記研修と合算し、業務は週最大5.5日に留めること。

家庭医療専門研修Ⅱ（本研修）の研修期間中に週1回などのペースで並行して行われる領域別研修の内容とその日数（週1日まで）※並行して行う研修は内科、小児科は除く。カンファレンス等学習機会はここに記載しない。

内容	
日数	日/週

※研修施設が2箇所以上にわたる場合、上記内容をコピー＆ペーストして記載。その際、研修施設名「1」の番号を順に「2」、「3」と増やすこと。

11-3. 領域別研修：その他*						
研修領域	必修・選択別	ブロック・兼任の別	研修日数/週 (兼任の場合)	研修期間	研修施設名と診療科名	指導医氏名
内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
小児科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
救急	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
一般外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
整形外科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
精神科／心療内科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
産婦人科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
皮膚科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
泌尿器科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> ブロック <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月		
眼科	<input type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> ブロック	() 日/週	() カ月		

受付番号	受付日	20 年 月 日	決定日	20 年 月 日	決定
------	-----	----------	-----	----------	----

	<input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> 兼任			
耳鼻咽喉科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フロク <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月	
放射線科	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フロク <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月	
臨床検査	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フロク <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月	
リハビリ テーション	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フロク <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月	
その他 ()	<input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	<input type="checkbox"/> フロク <input type="checkbox"/> 兼任	() 日/週	() カ月	

※家庭医療専門研修プログラム期間中に行うものだけ記載すればよい。